

テーマ：観光（実践校）

釧路管内 厚岸町立厚岸小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間と社会科の学習を関連させて、厚岸町の産業や歴史等について調べるとともに、施設見学や外部講師による講話及び出前授業等を通して、地域における観光資源の魅力等について探究的に学習し、学習発表会で学習の成果を発表しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

厚岸町の産業や歴史等について調べる活動を通して、自分たちが住んでいる町の観光資源と観光資源を保全する取組との相互性について理解するとともに、厚岸町の未来について具体的に考え、厚岸町の魅力を発信したり、地域のために行動したりすることができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

第5学年までの総合的な学習の時間や社会科での学習、「観光教育ガイドブック」やWebページから得られた情報を通して、一人一人が厚岸町の観光資源の歴史や魅力等について探究的な課題を設定しました。



【インタビューする様子】

(2) 情報の収集

講話や郷土資料館などの施設見学を通して、厚岸町の産業や歴史等について情報を収集しました。

また、修学旅行におけるインタビューを通して、近隣町村の産業や歴史等について情報を収集しました。



【出前授業の様子】

(3) 整理・分析

厚岸町について収集した情報を「自然」、「食べ物」、「生活文化」等の6つの視点で整理し、それぞれの視点について近隣町村と比較することを通して、厚岸町の魅力や課題について理解を深めました。



【スライド作成の様子】

(4) まとめ・表現

1人1台端末を活用し、作成したスライドを用いて発表することを通して、厚岸町の観光資源の魅力についての理解が深まるとともに、地域の方々に対し、厚岸町の未来について考えたことを発表しました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・1人1台端末を活用し、児童一人一人の興味や関心に応じた課題を設定したり、課題の解決に向けて取り組んだりできるようにしました。
- ・学習課題について、理解を深めたり、新たな課題解決の視点を得たりできるよう、共通する課題に取り組む児童同士でグループを編成するとともに、クラウドを活用して情報を共有し、適宜交流・協議しました。

実践の振り返り

- ・「観光教育ガイドブック」を活用するとともに、児童自身が設定した課題について、探究的に学習を進めたことにより、厚岸町の観光資源の魅力に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・総合的な学習の時間を中心に、各教科等の学習内容と関連付けたり、外部講師や地域施設等を効果的に活用したりするなど、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを図ることにより、自分たちの住んでいる町や北海道への愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。